

科目名	国際看護と災害看護-災害看護	対象学年・時期	3年・前期
講師	非常勤講師	単位数・時間数	1単位30時間のうち15時間
講義概要	<p>ディプロマポリシー 2, 3, 4 に基づく。地球環境の変化により大規模な自然災害が頻発し、災害看護を学ぶ必要性が高まっている。災害時の看護活動は、危機管理と倫理的原則の視点を持ち、子どもや基礎疾患をもつ成人、高齢者と全ての発達段階における特徴と、身体的・精神的な状況をアセスメントにつなげ、その場の限られた資源を用いて、調整しながら実施できる技術が必要とされる。災害の状況を体験からイメージし、既習の発達段階別の看護や経過別看護の知識に基づいて知識を統合し、災害の特徴や災害サイクルの特徴に即した看護を考え、判断・実践する力が必要である。災害の特徴や災害のサイクルの特徴にそって、看護の知識や技術を適切かつ柔軟に用い、他分野と協働して、災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくするための看護活動を理解する。トリアージや傷病者の救護など実践のシミュレーション学習を通して、災害看護実践力を身につける。</p>		
授業形態	講義 演習		
学習目標	1. 災害の種類・特徴、災害に関する法律が理解できる 2. 災害サイクルの特徴にあわせた看護が理解できる 3. 災害看護実践が理解できる		
学習内容 (授業計画)	<p>1. 災害の種類・特徴</p> <p>2. 災害に関する法律</p> <p>3. 災害サイクルと看護活動：演習</p> <p>4. 被災者と心理の特徴、援助</p> <p>5. 災害時に必要な医療・技術</p> <p>トリアージ：事例による演習</p> <p>災害時の看護技術：演習</p> <p>BLS演習</p>		
使用テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 災害看護</p> <p>参考文献：医学書院 臨床外科総論</p>		
事前学修・ 事後学修 (学習を促進できる学修)	その都度指示する		
評価基準と 評価方法	筆記試験		
備考	医療者として人命救助に向けた技術習得の貴重な機会ととらえて演習に望みましょう。		